

## 朝のあいさつ

2023.1.6

「朝晩のあいさつだけは必ず自分の方から先にする」という方がいる。これは、自分より年上の人に対してばかりでなく、同年代の人に対しても、さらには、年下の人に対してもである。常に自分の方から先にあいさつをするのである。

自分はどうか、我が身を振り返ってみた。朝の「おはようございます」だが、仕事上では、相手が誰であろうが、躊躇なくあいさつをしている。生徒に対しても同じである。だが、月曜日と木曜日のゴミ出しのときなどに、たまに顔見知りではない近所の方であろう人と会うことがある。そのときは、やや考えながら、声も小さめになる。

朝のあいさつというものは、「お互いの人間関係を正しい軌道に乗せる作業」だという方がいる。だとすれば、私たちの1日の暮らしの上で、一切の事柄に先行する大事な心がけと言える。特に、自分より年下の人々に対しても、こちらから先にあいさつができたとしたら、その人は、その一事をもって、人の器を感じさせることができる。

朝のあいさつだが、生徒に対しても、先生方に対しても、1年のうちで一番大きな声であいさつをしているのは4月である。5月になると、だんだんと落ちていく。その後は、ずっと低空飛行が続く。自分で自覚している。これが毎年の傾向である。これではいけないとわかってはいる。

4月は、相手があいさつをしてくれるかどうか、相手の声が大きいかどうかなど関係なく、こちらから大きな声であいさつをする。ところが、徐々に相手に合わせるようになってしまう。それがいけない。

晩のあいさつはどうか。生徒に対しては「さようなら」と言える。では、先生方に対してはどうか。私より先に退勤する先生へは「お疲れさまでした」と言える。これはよい。問題は、私が退勤するときである。職員室に残っている先生方がいる。「お先に失礼します」これが苦手である。先に帰ることが申し訳なく思われて、どうしても声が小さくなる。できれば、だまってそっと帰りたい。

人は、あいさつができるかどうかで、その人を判断する傾向がある。見た目とあいさつで、ほぼ9割を判断しているのではなかろうか。そのくらい、あいさつの占める比重は大きい。これからも、声の大きさに多少の波はあったとしても、自分から先にあいさつをしようと思う。ゴミ出しのときも、こちらからあいさつをしたときの清々しさは、一日のスタートにはもってこいである。

この1年、改めて「おはようございます」の大切さを考えていきたい。